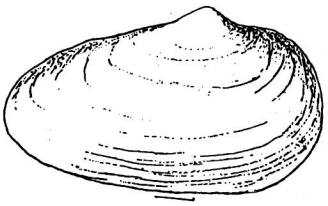
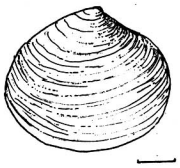


エゾオオノガイ

（中新世）暖温から冷温水の内湾にやや深くもぐって棲みます。植物プランクトンを食る。

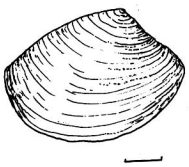
スエモノガイ

（中新世）冷温水から寒冷な海水で、深さ10mから50mの砂底にもぐり、プランクトンを食べる。



カガミガイ

（古第三紀～現世）中型、円に近い形で、成長線が発達。



ビノスガイ

（古第三紀～現世）中～大型卵形で厚い。殻頂は前方へ寄る。板状の成長線。

ヌノメアサリ

（新第三紀～現世）中型、卵形でふくらむ。放射肋、共心円の成長線と交じわって布目状になる。殻頂は、前に寄る。

シュウダミアンテイス

フナクイムシ

（ジュラ紀～現世）幼貝のときに、体の前の部分の、小さな殻の表面にある、刃のような刻みで木材に穴をあけて、入りこみ、巣穴の周囲を石灰で固めて長い管をつくる。巣穴の出口は、体の後ろについている、小さな石灰板で閉じて外敵から身を守る。塩坪層の上部の砂岩から、その穴がたくさん掘られた木材がみつかります。